

科目名称	老年看護学実習Ⅱ（健康障害を持つ対象への看護）	学年学期	単位数	時間数
		第3学年 前期～後期	2	90
担当教員	玉井 里香	q	<input checked="" type="checkbox"/> 有（看護師） <input type="checkbox"/> 無	

#### 【1】授業概要

老年期にある対象を統合的に理解し、治療や看護を必要としている対象の健康回復や生活能力の回復あるいは社会復帰を目的とした看護援助を、看護過程を用いて実践する。

#### 【2】学習目標

1. 対象の老化による変化と健康上の問題を総合的に捉えることができる。
2. 看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し臨床判断能力を養うことができる。
3. 対象の生命と人格を尊重する態度を養うことができる。
4. 対象を支える多職種との連携・協働、継続看護を通して看護師の役割を理解することができる。
5. 実習を通して自己の課題を明確にできる。

#### 【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 人間を理解し、倫理的な態度で看護を実践する力
- 2. あらゆる対象に応じた看護を実践する力
- 3. 地域の特性を看護に生かす力
- 4. 保健・医療・福祉システムにおける連携・協働できる力
- 5. 主体的に学び続ける力

#### 【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1 週 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟オリエンテーションから、病棟の構造・設備を踏まえた患者の入院環境と、生活史や老化の特徴、疾患の症状を踏まえて患者の全体像を理解する。</li> <li>・老化や病気と共に生きる対象を受持ち、対象の身体的・精神的・社会的側面や家族の思いを理解する。また、ゴードンの11パターンに沿って情報を分析する。老化や疾患から生じる健康障害や、起こりうる変化を考え、日常生活への影響をアセスメントする。</li> </ul>	臨地実習
2 週 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受持ち患者の全体像をもとに、援助が必要な看護問題を考え、看護目標・看護計画を立案する。そして日々の実習の中で看護計画の実施・評価・修正を行う。</li> <li>・カンファレンスで関連図を踏まえた看護計画について話し合い、対象に必要な看護実践につなげる。</li> <li>・看護援助の実践、振り返りを通して臨床推論、臨床判断の実際を学ぶ。</li> <li>・病棟カンファレンスに参加し、多職種との連携や地域包括ケアシステムについて理解する。</li> <li>・看護師の指導のもと、病棟で行われている日常生活援助技術、処置・検査を見学および実施し、振り返る。</li> </ul>	
3 週 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受持ち患者の看護実践や看護場面の見学から、老化や疾患の受容、残存機能の維持を考慮した日常生活援助、退院後の生活を見据えた援助の実際を経験する。また、対象の状態に応じた、より安全で安楽な援助を行い、振り返る。</li> </ul>	

#### 【5】評価方法

老年看護学実習Ⅱ評価表を用い、実習目標の達成度、実習記録等の提出物、実習前から実習後までの学習状況、実習の取り組み・出席状況により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 【6】教科書

なし

#### 【7】参考書

老年看護学実習Ⅱ前オリエンテーションで配布した資料  
その他は随時紹介する

#### 【8】受講生へのメッセージ

3週間一人の受持ち患者さんに関わっていきます。実習を通して、対象を理解し、健康障害を持つ高齢者と家族の看護の実際を学びましょう。